

環境経営レポート



エコアクション21[®]
認証番号 0013292

第5号

運用期間：2023年12月～2024年11月



発行日：2025年2月14日

株式会社 産公精機

目 次

1. 会社概要	Page 3
2. 対象範囲	Page 4
3. 環境経営組織	Page 4
4. 環境経営方針	Page 5
5. 環境経営目標	Page 6
6. 環境経営計画の取組結果と評価	Page 7
7. 環境経営目標の実績	Page 7
8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	Page 8
9. 環境関連法規などの遵守	Page 8
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	Page 9

1. 会社概要

1. 事業社名

株式会社 産公精機

TEL : 045-211-6161 FAX : 045-211-6160

2. 所在地

本社 〒246-0002 神奈川県横浜市瀬谷区北町40-44

綾瀬工場 〒252-1136 神奈川県綾瀬市寺尾西1丁目7-33

3. 代表取締役

森 啓安

4. 環境管理責任者

嵯峨 亮

E-mail r.saga@kk-sks.jp

5. 環境事務局

齋藤 篤

E-mail a.saitou@kk-sks.jp

6. 事業規模

2024年12月現在

売上高 7億5,000万円 (2023年12月 ~ 2024年11月)

従業員数 全 25名

7. 事業の概要 (活動範囲)

産業機器向け金属部品の機械加工及び組立て

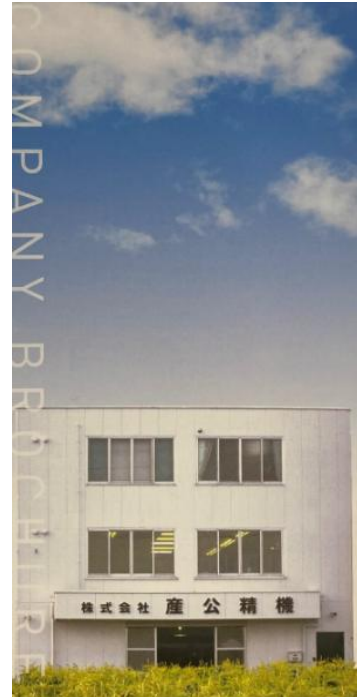
8. 事業年度

毎年 12月1日~翌年11月30日

9. レポートの運用期間及び発行日

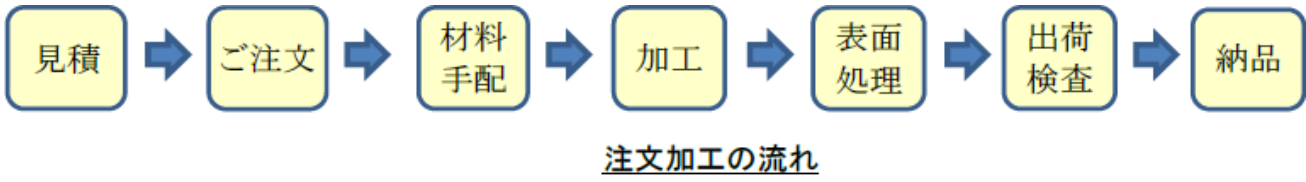
環境経営レポート運用期間： 2023年12月1日 ~ 2024年11月30日

環境経営レポート発行日： 2025年2月14日



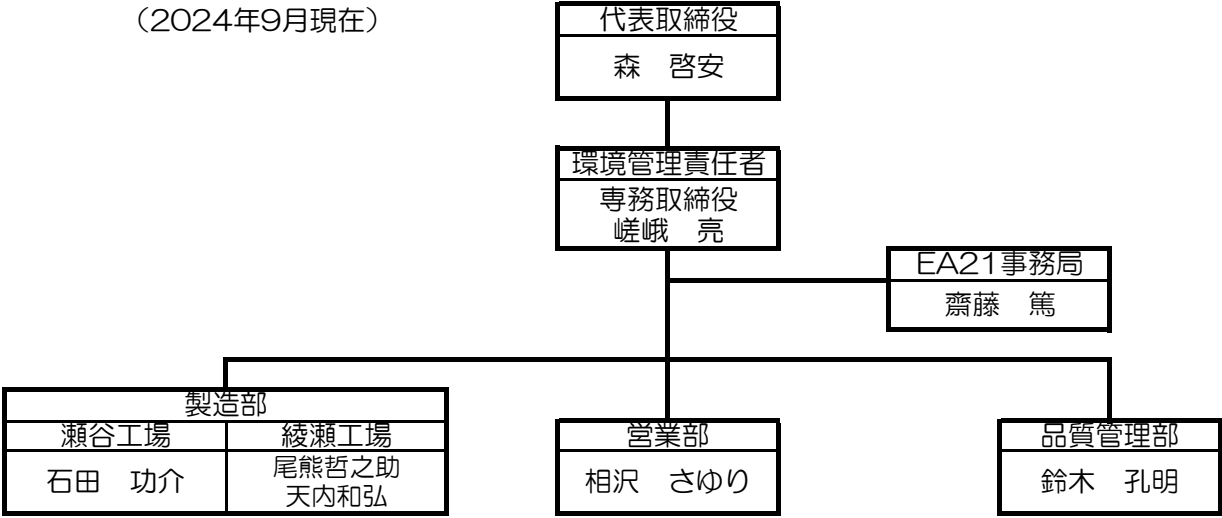
2. 対象範囲

- (1) 対象組織：全組織 （本社 および 綾瀬工場）
- (2) 対象：全社員
- (3) 活動：全活動



3. 環境経営組織

(2024年9月現在)



<関係者の権限と役割>

代表取締役

- 環境管理責任者の任命
- 環境経営に必要な資源の準備

環境管理責任者

- 環境経営全般に関する責任と権限
- 経営における課題とチャンスの明確化
- 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- 取組状況の社長への報告
- 環境経営方針の制定及び改定
- 環境経営システム全体の評価と見直し
- 環境経営レポートの作成

EA21事務局

- 環境経営目標・環境経営計画の進行管理
- 環境負荷データ等の集計
- 環境管理責任者へ取組状況の報告
- 環境関連法規等の遵守状況チェック

各部門長

- 環境管理責任者の指示事項を組織内に展開、実施

全従業員

- 自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する

4. 環境経営方針

【環境理念】

地球環境にやさしい『ものづくり』

環境に配慮したものづくりによる部品の提供を通じ、社会への貢献を目指します

【基本方針】

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量等の削減に努めます
 - 1) 電気、軽油、ガソリン等の使用量削減に努める
 - 2) 3R活動の展開による廃棄物の削減に努める
 - 3) 節水活動による水使用量の削減に努める
2. 環境関連法規制等の遵守
3. 環境に配慮した活動
4. 環境経営の継続的改善
環境に配慮した活動を中心に環境経営の継続的改善

以上の環境方針の下に、
全従業員に環境教育を行い、環境保全の大切さを周知させ、
環境意識の高揚を図る

制定年月日 2020年9月25日（初版）
改定年月日

株式会社 産公精機
代表取締役 森 啓安

5. 環境経営目標

(1) 運用期間の環境目標

運用期間：2023年12月～2024年11月

項目		単位	年間 使用量/排出量 基準値 ※2023年度実績	年度毎 での 削減率 目標	運用期間【2024年度】	
					2023年12月～2024年11月	
					削減率目標	目標値
二酸化炭素排出量 ※		kg-CO2	214,249	-1.0%	-1.0%	212,107
内訳	電力使用量 ※	kWh	459,615	-1.0%	-1.0%	455,019
	ガソリン使用量 ※	L	548	-0.5%	-0.5%	545
	軽油使用量 ※	L	1,493	-0.5%	-0.5%	1,486
廃棄物排出量	産業廃棄物 ※	kg	16,208	-0.5%	-0.5%	16,046
	一般廃棄物 ※	kg	3,030	-0.5%	-0.5%	3,015
水使用量 ※		m3	351	-0.5%	-0.5%	346
RoHS指令への対応		—	顧客要求毎	毎	都度適正対応	

<備考>

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー2018年度の調整後排出係数「0.455kg-CO2/kWh」
- PRTR物質不使用のため化学物質に関する目標は策定していません
- 「ガソリン、軽油使用量」は2022年度の未達成是正対策として2023年度に集計方法の見直しを行ったため、2023年度の実績値を基準として目標値を再設定しています
- 2023年度のエリア拡大をうけ、目標値と実績値が乖離状態となったため、2023年度の実績値を基準に目標値を策定しています

(2) 中長期の環境目標

項目		単位	基準値 ※2023年度実績	年度毎 での 削減率 目標	目標年度			
					2025年度 2024年12月 ～ 2025年11月	2026年度 2025年12月 ～ 2026年11月	2027年度 2026年12月 ～ 2027年11月	2028年度 2027年12月 ～ 2028年11月
二酸化炭素排出量 ※		kg-CO2	214,249	-1.0%	-2.0%	-3.0%	-4.0%	-5.0%
内訳	電力使用量 ※	kWh	459,615	-1.0%	-2.0%	-3.0%	-4.0%	-5.0%
	ガソリン使用量 ※	L	548	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
	軽油使用量 ※	L	1,493	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
廃棄物排出量	産業廃棄物 ※	t	16,208	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
	一般廃棄物 ※	kg	3,030	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
水使用量 ※		m3	351	-0.5%	-1.0%	-1.5%	-2.0%	-2.5%
RoHS指令への対応			顧客要求毎	毎	都度 適正対応			

<備考>

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー2018年度の調整後排出係数「0.455kg-CO2/kWh」
- PRTR物質不使用のため化学物質に関する目標は策定していません
- 「ガソリン、軽油使用量」は2022年度の未達成是正対策として2023年度に集計方法の見直しを行ったため、2023年度の実績値を基準値として目標値を再設定しています
- 2023年度のエリア拡大をうけ、目標値と実績値が乖離状態となったため、2023年度の実績値を基準に目標値を策定しています

6. 環境経営計画の取組結果と評価

運用期間：2023年12月～2024年11月

環境活動		取組み内容（通年）	達成状況	責任者	評価コメント
二酸化炭素 排出量削減	エコ ドライ ブ	アイドリングストップ	○	相沢	燃料の使用量は一部軽油が増加となったが、レギュラー使用量は削減し、取組みとしては評価できた。 取組み内容は変更せずに活動し、継続して削減目標が達成できるように努める
		不要な荷物は積まない	○		
		急発進・急加速はしない	○		
		効率的ルート選定（納品や引取の集約）	○		
	空調等（工場・事務所）	エアコンの設定温度の管理・運用	△	工場：石田 事務所：齋藤	電力使用量の削減への取り組み自体は、各々が意識して効率よく対応できた結果が実績にも表れてたと感じている 夏場のエアコンの温度管理については、まだ対策の余地があるのかなと感じられるものの、TOTALでの数値では達成ができたので一定の評価をしたい 引き続き取り組み内容に磨きをかけ活動し、更なる削減率達成に努めたい
		クールビズ、ウォームビズの実施	○		
		空調フィルター定期清掃（夏、冬 2回/年）	○		
		照明の間引き、節電	○		
		コンプレッサーのエア漏れチェック	○		
		未使用加工設備電源管理	○		
		OA機器等の節電モード管理	○		
		5S活動の実施	○		
水使用量削減	節水への取り組み		○	石田	水使用量削減については目標値の達成ができた 対策出来ることが少ない中で、節水など引き続き継続して取り組む
	水もれ点検実施		○		
廃棄物削減	コピー用紙の削減		△	齋藤	廃棄物に関しては、ごみの分別を強化したことで、「このエリアでの作業は、こういうごみが出るんだ」というような声も聞こえた。分別によりごみに対する意識が高まっている気がした リサイクルに努めているが油污れ等で再利用が不可な状態もあり、廃棄せざるを得ない状況もあった。取り組み内容に関しては評価したい
	廃油の削減、潤滑油（作動油）購入量		○		
	通函の延命化		○		
	リサイクル率向上		△		

7. 環境経営目標の実績

運用期間 2023年12月～2024年11月 の実績

運用期間
2023年12月～2024年11月

項目		単位	基準値	目標		実績		達成 評価
				削減率	目標値	実績値	削減率成果	
二酸化炭素排出量		kg-CO2	214,249	-1.0%	212,107	191,648	-9.6%	○
内訳	電力使用量	kWh	459,615	-1.0%	455,019	410,119	-9.9%	○
	ガソリン使用量	L	548	-0.5%	545.26	417.88	-23.4%	○
	軽油使用量	L	1,493	-0.5%	1,485.54	1579.53	6.3%	×
廃棄物排出量	産業廃棄物	kg	16,208	-0.5%	16,127	15,604	-3.2%	○
	一般廃棄物	kg	3,030	-0.5%	3,015	2,611	-13.4%	○
水使用量		m3	351	-0.5%	349	287	-17.8%	○
RoHS指令への対応			顧客要求毎		都度 適正対応	都度 適正対応		○

次年度【2024年12月～2025年11月】の環境目標への対応

軽油使用量	未達成要因	自社便をトラック便に集約した結果の増加
	是正対応	行き先までのルートなどを考慮し積み荷を集約した結果トラック便の回数が増えた。 そのため軽油使用量は増加したが、一方でレギュラー使用量は大幅に削減した。 総合的に判断しても削減するための手段として有効な対応だったと評価している。 そのため、取り組み内容の変更はせず活動を継続させる。

8. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

項目		単位	基準値	次年度【2025年度】目標		中長期目標	
				2024年12月 ～ 2025年11月		2025年12月 ～ 2026年11月	2026年12月 ～ 2027年11月
				削減率目標	目標値	削減率目標	削減率目標
二酸化炭素排出量 ※		kg-CO2	214,249	-2.0%	209,964	-3.0%	-4.0%
内訳	電力使用量 ※	kWh	459,615	-2.0%	450,423	-3.0%	-4.0%
	ガソリン使用量 ※	L	548	-1.0%	543	-1.5%	-2.0%
	軽油使用量 ※	L	1,493	-1.0%	1,478	-1.5%	-2.0%
廃棄物排出量	産業廃棄物 ※	t	16,208	-1.0%	16,046	-1.5%	-2.0%
	一般廃棄物 ※	kg	3,030	-1.0%	3,000	-1.5%	-2.0%
水使用量 ※		m3	351	-1.0%	347	-1.5%	-2.0%
RoHS指令への対応			顧客要求毎	都度 適正対応			

<備考>

- 1. 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー2018年度の調整後排出係数「0.455kg-CO2/kWh」
- 2. PRTR物質不使用のため化学物質に関する目標は策定していません
- 3. 「ガソリン、軽油使用量」は2022年度の未達成是正対策として2023年度に集計方法の見直しを行ったため、2023年度の実績値を基準として目標値を再設定しています
- 4. 2023年度のエリア拡大をうけ、目標値と実績値が乖離状態となったため、2023年度の実績値を基準に目標値を策定しています

なお、環境経営計画の取り組み内容については変更ありません。

9. 環境関連法規などの遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制などの名称	遵守事項	遵守状況
騒音規制法	特定施設の届出	遵法
振動規制法	特定施設の届出	遵法
フロン規制法	冷凍空調機器：簡易点検実施(3ヶ月に1回以上) 空調機(7.5kW～50kW未満)：有資格者による定期点検3年に1回以上 製品管理者のフロン類回収業者への引き渡し義務	遵法
廃棄物処理法	委託基準(契約書・許可証)、 マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法
消防法	少量危険物 及び指定可燃物の貯蔵及び取扱 指定数量以上の危険物保管の届出 危険物の取扱作業に関して保安の監督	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

EA21事務局が環境関連法規などの遵守状況の確認を行った結果、違反はありませんでした。
また、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありません。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による
全体評価・
見直し指示

昨年のエリア拡大を受け目標値と実績値が乖離した状態となり、環境負荷への評価を適正に行うために本年度からは2023年度の実績値を基準値として再設定をした。
 そのため、実績としては昨年度との比較となり一項目が未達成となる結果となった。
 ただ、未達成となった「軽油使用量」の増加については、その裏側で「レギュラー使用量」は大幅に減少した。これらを踏まえ総合的に判断すると、全体的に削減ができたと評価し、良い活動内容だったとみている。
 本年度の結果を振り返ると、日常の仕事以外で環境目標に向けて社員それぞれが考えて行動できるようになった証が実績として現れたと感じられる結果となり、とても嬉しく思う。
 エコアクション21の取得から数年が経過し、今までの活動内容が実績として現れ評価された訳だが、さらなる削減を目指すべく引続き活動内容は変更せずに継続させ、今回の実績が目標達成できたことで現状維持と考えずに、取り組み内容のブラッシュアップも視野に入れて取り組んでいくことを心がけるように指示した。
 指示日： 2025年2月7日
 株式会社 産公精機
 代表取締役 森 啓安

見直し項目		改善の 必要性	「有」の場合の指示事項等
1	環境経営方針	有・ ☒ 無	
2	環境経営目標	有・ ☒ 無	
3	環境経営計画	有・ ☒ 無	
4	環境に関する組織 (実施体制)	有・ ☒ 無	
5	その他のシステム要素	有・ ☒ 無	
6	その他（外部への対応）	有・ ☒ 無	